

2019年度事業報告

NPO 法人フードバンク狛江

(2019年4月1日～2020年3月31日)

1、フードバンク事業

フードバンク事業は、まだ食べられるのにさまざまな理由で廃棄される食品を個人や企業から寄贈してもらい、生活困窮世帯・ひとり親家庭への食のセーフティーネット事業を支え、また食品ロスとなる食品を活かして福祉団体への無償提供を行う。

(1) フードドライブ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (Kg)
市民	128.3	33.6	122.2	369.9	192.5	148.8	175.6	83.3	287.8	51.6	78.0	152.5	1,824.1
常設	46.3	46.9	31.0	113.2	90.8	86.1	102.9	112.9	288.0	36.9	71.1	71.6	1,097.7
企業・団体	324.4	241.8	416.0	800.1	1,768.4	668.6	537.9	957.3	542.7	356.8	366.6	1,481.8	8,462.4
イベント	0.0	16.6	13.3	0.0	0.0	0.0	104.1	71.1	0.0	0.0	0.0	0.0	205.1
生協	7.7	135.0	17.2	0.0	5.0	445.0	214.2	149.3	0.0	1.2	185.8	202.5	1,362.9
合計(Kg)	506.7	473.9	599.7	1,283.2	2,056.7	1,348.5	1,134.7	1,373.9	1,118.5	446.5	701.5	1,908.4	12,952.2
(内米)	27.0	92.6	59.0	271.0	70.8	172.0	287.7	330.6	458.9	65.3	129.7	557.7	2,522.3

- ① 市民寄贈＝フードバンク事務所/倉庫への持ち込みや、宅配便で届けられた市民からの寄贈食品。
ひとり親子育て応援で食品寄贈を呼びかける7月及び12月は寄贈量が倍増している。立ち上げ当初から他都市から寄贈してくれる個人や新聞に掲載された記事を見て新たに寄贈・寄付が入ることも多い。
- ② 常設のフードドライブ(寄贈受付場所)＝寄贈量は昨年比1.3倍へ増加。狛江市社会福祉協議会(あいとぴあセンター)、こまえくぼ1234、こまえ苑、こまえ正吉苑、狛江市ビン缶リサイクルセンターでは14時～16時でフードドライブを実施し(毎月第1火曜日市内6カ所)、常設の食品寄贈受付場所を拡大してきた。食品集荷の取り組みとしては市民がいつでも寄贈食品を持ちこめる先ができ、イベントより常設場所への寄贈が地域に知られ、その効果によって地域に広がりが見られた。

市民活動支援センター こまえくぼ 1234	487.6kg
こまえ正吉苑(西野川)	76.8kg
こまえ苑(岩戸南)	168.6kg
狛江市ビン・缶リサイクルセンター(月1回)	136.7kg
狛江市社会福祉協議会(あいとぴあセンター)	228.1kg



③ 企業・団体＝三色パステルアート(賛助団体)は、不足食品を毎月購入し賞味期限のチェックのボランティアもされている。おてらおやつクラブ(町田)華嚴院から月1回以上の果物等の寄贈も喜ばれている。福島支援で米を購入して2か月に一度寄贈がある東京すずらの会など定期的な支援を受けることで支援事業を継続できたといえる。

2019年度には全国フードバンク推進協議会のマッチング企業も増え、ローソンと狛江も協定を交わし、ひとり親応援の夏の支援にはお菓子など喜ばれた。地方のフードバンクからひとり親子育て応援用の米の寄贈(送料狛江で負担)も受けている。また、夏場には事務局員の援農で調布農家から野菜の提供を受け、小菅村コネクからはバナナの寄贈など、生ものを提供したが今期で終了。近くのフードバンクかわさき、フードバンク調布などからの食品シェアにも支えられている。4年目の日大商学部秋川ゼミ生による祖師谷商店街フードドライブ品寄贈をはじめ、東京都市大学等々力高校、カーブス稲城・祖師谷大蔵店、東急キッズベースキャンプのフードドライブなど学校や店舗でのフードドライブによる食品寄贈もあった。

年間食品集荷量が今年度12トンを超えた理由としては、以下のように寄贈先が着実に増えていることがあげられる。

2019年度食品等を寄贈いただいた企業・団体一覧

三色パステルアート／おてらおやつクラブ:(町田)華嚴院／コカ・コーラボトラーズジャパン(株)／東都生活協同組合／東京南部生活協同組合／狛江市安心安全課／狛江市議会事務所／東京すずらの会／フードバンクかわさき／フードバンク調布／浦和市役所／フードバンクあきた／マルコメ(株)／生活協同組合コープみらい／明治(株)ローソン／(株)トラストワン／(株)ティエーガイヤ／(株)東芝／(株)ピオクラ食養／(株)みゆき堂本舗／(株)オシザワ／(株)東急キッズベースキャンプ／JR東日本／(株)スポーツボックス／明治ホールディングス(株)／日大商学部秋川ゼミ／モランボン／ロッテ／フードバンクみたか／ドクタージャパン(株)／コープみらい染地店／コネク／鴨志田農園／第一生命労働組合渋谷営業職支部(狛江)／JR東日本ウオータービジネス／東洋化学工業(株)／東洋インクSCホールディングス／日本電信電話／NPO法人えるぷ／府中派遣村／NPO法人POPOLLO／狛江アレルギーの会／(株)オリハルコン／ダイビル(株)／千歳荘／幸恵行政事務所／カーブスアメリカ稲城・カーブス祖師谷大蔵／丸全／東京都市大学等々力高校／堀口珈琲

企業・団体と市民からの食品寄贈量年度別推移

年度	企業・団体寄贈量	市民の直接寄贈量
2019年度	8,462kg	1,824kg
2018年度	5,289 kg	1,840 kg
2017年度	5,083 kg	2,015 kg
2016年度	1,294 kg	1,019 kg



④ 地域のイベント等でのフードドライブ

イベントでのフードドライブ集荷量は、昨年度に比べかなり減った。イベントはこまエコまつり・くらしフェスタ市民まつり・パルシステム狛江センターまつりに参加。広報を兼ね、オーガニックポップコーンを100円で販売し、よく売られて喜ばれている。市民まつりでは生活用品をはじめでのバザーで売った。常設が増えイベントでのフードドライブは、集荷量は低いが広報の意味は大きい。

食品寄贈は、計7回の実施で合計206.3kg(昨年度計8回で369kg)であった。

2019年	5月25日	第三回通常総会	16.6kg
	6月2日	こまエコまつり	13.3kg
	10月15日～17日	市庁舎フードドライブ	88.3kg
	10月26日	講演会	5.2kg
	10月26日	くらしフェスタ	10.6kg
	11月17日	狛江市民まつり	52.6kg
	11月30日	パルシステム狛江センターまつり	18.5kg
合計9回			206.3kg

- ⑤ 生活協同組合 4 団体のフードドライブと連携＝本事業の土台ともいえる生活協同組合によるフードドライブ食品寄贈は、東京南部生協では設立当初から年 2 回、今年度は寄付を募って 2 回の生協食品の購入寄贈も受けた。東都生協入間センターでも、組合員のフードドライブが年 2 回実施された。コープみらいでは池袋イベントでのフードドライブの出店に、4 ブロック委員による染地店でのフードドライブ終了後、店長が変わった後もロス食品の提供を受けている。パルシステム東京・狛江センターでは、フードドライブ寄贈量は少ないが、毎年センターまつりに出店している。今年度は助成金を受けたことで組合員向け月刊誌「わいわい」の取材を受け、フードバンク狛江の活動が紹介された。

全体としてみると、南部生協以外、一回ごとの集荷量は下がってきているが、寄付(生協商品)での支援も検討してもらって連携の強化を図りたい。

2019年6月 2019年9月、2020年2月	東都生協協同組合フェスタ フードドライブ品(入間センター)	319.7kg
2019年 5 月、11月 2019年10月、2020年3月	東京南部生協寄付金による食品 フードドライブ品	661.0kg
2019年4月、5月、6月、8月、9月 2020年2月	コープみらい染地店 コープみらいフェスタ	381.0kg

(2) 地域の福祉団体への食品提供

- ① 連携する団体は8団体増え、延べ 153 回、4,452 kg(昨年度 116 回、3,725kg)の食品等を提供した。

食堂系団体	こども食堂、困窮者向け食堂など	5 団体
市内諸団体	障がい者(児)、子ども、高齢者、困窮者支援団体、地域福祉団体	14 団体
市外諸団体	困窮者支援団体、福祉施設、簡易宿泊所など	6 団体

提供先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(Kg)	
団体	重量	164.4	269.8	271.7	529.6	840.8	722.9	390.3	544.2	165.6	263.9	101.5	187.7	4,452.4
	(内米)	2.0	10.0	5.0	0	8.0	5.0	0	25.0	5.0	15.2	0	0	75.2
	件数	16件	7件	15件	18件	18件	23件	13件	12件	11件	10件	8件	2件	153件

- ② 周辺のフードバンクとの寄贈食品のシェア。

	フードバンクかわさき	フードバンク調布	フードバンクみたか
食品在庫量	158.7kg	393kg	0
食品出庫量	742.4kg	0 kg	62.7kg

2、食のセーフティーネット事業

食のセーフティーネット事業とは、狛江市と食料支援連携協定により、福祉保健部・生活困窮相談窓口こま YELL の依頼書をもとに、困窮世帯に合わせた食品の提供をする事業と、2018 年から夏休み・冬休み・春休みのひとり親子育て支援で申し込みのあったひとり親家庭への食料支援事業のこと。市の子ども政策課の 8 月児童扶養手当現況届提出のお知らせ時、12 月医療助成の証書送付時、「給食のない時期、ひとり親子育て応援の食料支援をします」の案内を同封、周知してもらっている。3 月は夏・冬つながった世帯にメール等で送付している。

(1) こま YELL を通じた食料支援

2019年出庫（食品提供）集計		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (Kg)
こまYELL 個人支援	重量	303.6	231.9	210.5	304.3	305.3	517.2	535.0	478.8	350.9	247.7	165.3	317.7	3,968.2
	(内米)	82.7	65.0	64.0	85.1	67.5	141.5	154.6	120.0	94.8	76.8	57.0	101.9	1,110.9
	件数	51件	36件	35件	49件	42件	64件	80件	74件	61件	51件	37件	66件	646件
こまYELL 学習支援	重量				17.7	5.9	1.8	32.2		26.5			17.9	102.0
	件数	0件	0件	0件	11件	4件	1件	20件	0件	21件	0件	0件	15件	72件

① こま YELL への食料提供方法の変更。

開所日の時間を、毎週月曜・木曜の午後 13 時から 17 時までに変更。業務多忙なこま YELL と協議の上、相談員が事務所へ食品を取りに来ないで、翌週分の食料支援依頼書（個人情報保護で氏名を入れず番号表示）を受け取り、納品書記入を廃止して、世帯に合わせた食品のセットと配送を引き受けてきた。

支援実績は月平均で 53.8 件、最多月は 80 件になった。支援総量は年間約 4 トン。こま YELL の相談支援を受け食料支援を利用している年代別の構成は、20・30 歳代から 70 歳代以上までと幅広い。一方、こま YELL を通じて食料支援をしたひとり親世帯は、平成 29 年度では 32 世帯（父子家庭含む）が、平成 30 年度は 11 世帯に減少。子育てや仕事の多忙さなど、福祉窓口へ相談に行くハードルの高さによると思われる。

大きな課題になった団体のカビ問題などで、市庁舎内の空き部屋活用で使用許可が下り、2020 年 2 月から、市庁舎内の作業スペースで食品セットと袋詰めまでを行い、こま YELL 相談員が依頼書に重量計測し記載後、受け取りサインをもらうこととした。1 月末から 3 回こま YELL への食品提供休止後は問題なくできてきている。

こま YELL 個人支援				
	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
食料提供回数	233 回	478 回	682 回	646 回
月の平均支援回数/月	20 回	39.8 回	56.8 回	53.8 回
食料支援量	1,112kg	2,780kg	3,955 kg	3,968.2 kg

こま YELL 学習支援				
	夏休み	ハロウィン	クリスマス	春休み
件数	16	20	21	15
食料支援量	25.4kg	32.2kg	26.5kg	17.9kg

② こま YELL の学習支援(家庭訪問型)を受ける子たちへ年間 4 回のお菓子飲料の提供。

こま YELL の家庭訪問型学習支援は今年度で 4 年目を迎え、提供時期は卒業進級時期の 3 月、夏休み前の 7 月、ハロインの 10 月、クリスマスお正月の 12 月の年間 4 回。時には寄贈を受けた図鑑やストラップ、鉛筆やボールペンなどとメッセージカードをつけて提供してきた。

支援開始当初の 4 年前、支援を受ける小中校生は 14 名、現在は 28 名と増えた。この春は新型コロナウイルス感染対策で学習支援訪問が中止となり、コロナが収束後、提供を再開していきたい。

ボランティアの交流会には、フードバンク狛江として参加し、お菓子・飲料の提供をした。

(2) 学校給食のない時期のひとり親子育て応援の食料支援、今年度も継続へ

子ども政策課が取ったアンケートで、ひとり親母子世帯で年収 100 万円台や 100 万円未満の世帯が 148 世帯中 47%もいることを知り、子ども政策課の周知協力で案内を送付し、配送または事務所での受け取り方式で食料支援を実施している。

毎回のアンケートの回答から、食料支援が家計の助けになっているだけでなく、団体訪問時の対応スタッフの感じのよさや手書きのメッセージが喜ばれ、ひとり親やその子どもにとって、励ましや支えになっていることが分かる。

冬休みの支援では資金調達のために 2019 年度もクラウドファンディング FAAVO に取組み、目標額の 25 万円を超えて 28 万 9 千円の支援、直接現金での寄付も 14 名から 12 万 6 千円寄せられ、昨年に続いて冬・春と朝日新聞にひとり親子育て応援が取り上げられ広報になった。(冊子の事業報告参照)



支援申し込み数					
	世帯数	総人数	高校生以下人数	世帯主他の人数	食料支援量
2020 年春休み	67	177	99	11	787.2kg
2019 年冬休み	57	147	84	6	583.9kg
2019 年夏休み	64	170	97	9	665.9kg
2019 年春休み	39	106	62	44	376.1kg
2018 年冬休み	50	136	77	59	506.3kg
2018 年夏休み	44	122	67	55	431.5kg

子ども(高校生以下)の人数内訳				
	小学生未満	小学生	中学生	高校生
2020 年春休み	10 (9%)	43 (39%)	23 (21%)	23 (21%)
2019 年冬休み	11 (13%)	35 (42%)	21 (25%)	17 (20%)
2019 年夏休み	11 (11%)	35 (36%)	32 (33%)	19 (20%)
2019 年春休み	9 (15%)	21 (34%)	18 (29%)	14 (22%)
2018 年冬休み	12 (15%)	29 (37%)	20 (26%)	16 (20%)
2018 年夏休み	7 (11%)	29 (43%)	17 (25%)	14 (21%)

人数別世帯数内訳				
	二人世帯	三人世帯	四人世帯	五人世帯
2020年春休み	32(47%)	27(40%)	8(12%)	—
2019年冬休み	29(51%)	24(42%)	3(5%)	1(2%)
2019年夏休み	30(47%)	26(41%)	8(12%)	—
2019年春休み	14(36%)	22(56%)	3(8%)	—
2018年冬休み	19(38%)	26(52%)	5(10%)	—
2018年夏休み	17(39%)	20(45%)	7(16%)	—

また今年度は、給食のない時期だけでなく、10月・11月にメールで案内を送付し、企業・団体などの口食品を活かして、直接事務所で受け渡しを行う形で食料を提供した。年明けには、ふれあいこどもまつり実行委員会とのコラボ企画で、「道化師びりさん」を呼んでイベントを開催。簡単な軽食を用意し、初めて子どもの居場所的な取り組みを行った。これを機にこま YELL の支援につないだケースもあった。

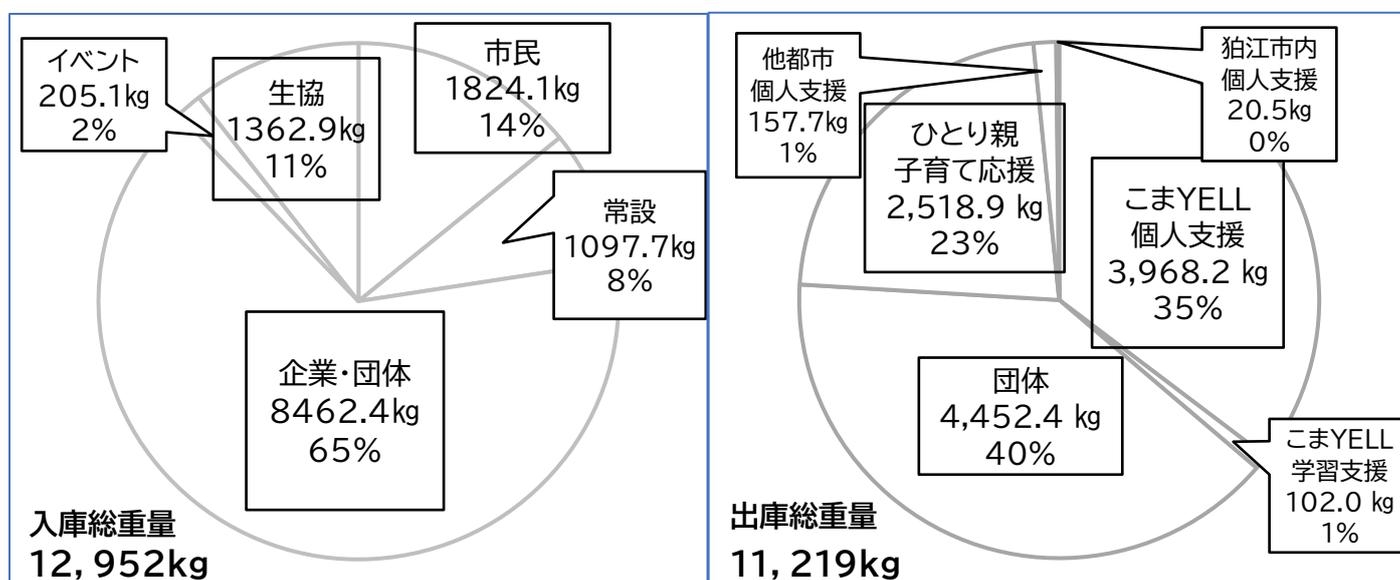
狛江市の「若者子ども応援プラン」にもフードバンク狛江の活動が子ども食堂と並んで掲載された。期待される子育て支援策となるよう、学校との連携なども含め今後も課題である。

(3) こま YELL 以外の緊急食料支援の状況

今年度も他都市からの SOS や支援窓口が閉まっている際の市民からの SOS など、緊急支援は原則一度限りという了解のもと、食料提供を実施。その際には状況を聞き、継続支援が必要か、できる限り公的・民間の支援団体や他のフードバンクの紹介をしている。今年度19回178.2kg(昨年度20回190.5kg)を提供した。

	回数	食料支援量
狛江市内個人支援	2	20.5kg
他都市個人支援	17	157.7kg
合計(昨年度)	19(20)	178.2kg(190.5kg)

2019年度食品入出庫グラフ



3、フードバンクの普及・啓発事業

念願だったフードバンク支援を盛り込んだ食品ロス削減推進法の成立を受けて、狛江市と共催で日本フードエコロジーセンターの高橋巧一を講師に食品ロス問題講演会を開催した。また、会員である文学作家中島信子氏の「八月のひかり」は子どもの貧困問題をテーマとした児童文学作品で、フードバンク狛江のひとり親子育て応援の食料支援を後押しするものとなり、11月には読書会も開催した。

(1) 団体交流会と講演会開催、地域のイベントへの参加

- ① 地域の4つのイベントに参加して広報を兼ねたポップコーン販売とチラシの配布を実施。

	地域イベント名	広報(チラシ内容)	ポップコーン販売
2019年6月2日	こまエコまつり	夏休み子育て応援	218食
10月26日	くらしフェスタ	食品ロス問題講演会	——
11月17日	狛江市民まつり	冬休み子育て応援	453食
11月30日	パルシステム狛江センターまつり	冬休み子育て応援	43食

2020年3月開催の中央公民館の集いは、もともと狛江市庁舎でのフードライブを開始したため参加しない予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策によりイベントは中止となった。

- ② 7月13日、昨年に続き「第二回フードバンクと繋がる団体交流会」を開催。

食品削減推進法成立によりフードバンクを地域の仕組みとするために、食品の提供をする地域の食堂系や生協3団体など昨年より2団体10名多い、14団体44名の参加で交流会を開催した。活動を知ってもらうことで良い機会となり、フードバンク活動の地域での広がりを実感した。

- ③ 食品ロス削減推進月間に市庁舎でのパネル展示と食品ロス問題講演会を開催。

10月15～17日、3回目となる市庁舎ロビーフードライブでの広報活動として、翌週末に迫った講演会の周知とパネル展示による啓発活動を敢行。食品寄贈者と併せて昨年の半数の57名来場にとどまった。

「食品ロス問題講演会」は、5月公布、10月に施行された「食品ロス削減推進法」を広く周知し、フードバンク活動を地域に根付かせるために狛江市との共催を実現させて取り組んだ今年度の最重要イベントだった。一部は日本フードエコロジーセンターの高橋巧一氏の講演、二部は全国フードバンク推進協議会の米山広明氏の講演と連携する地域の6団体の活動報告をいただき、86名の参加で成功裡に終えることができた。しかし、食品ロス問題とロス食品を生活困窮者支援に活かすフードバンク活動への関心は高いとは言えず、国や自治体の本格的な取組みが不可欠といえる。



- ④ 理事長による講演・執筆による広報

狛江市社会福祉協議会より福祉カレッジでの講演依頼を受け、11月20日こまえくぼで地域の活動に関心を持つ市民向けに、こま YELL の事業報告の後、理事長がパワーポイントで活動紹介を行った。また、実教出版より4月1日発行の高校家庭科資料で、フードライブの取組みについての執筆依頼があり、約一ヵ月かけて8000字の原稿を書き上げて公表した。

(2) 媒体を利用した広報活動

各媒体を通して、食品寄贈やお金の寄付、ボランティア希望、困窮者から食料支援の SOS の連絡が寄せられた。

① 紙媒体

イベント・講演会開催に向けてチラシやポスターを作成し活用した。今年度はチラシの作成に、パルシステム東京市民活動助成基金を一部使用した。

ニュースレター	合計4回	2019年11月 No.21 2020年2月 No.22 2019年5月 No.19 2019年9月 No.20
チラシ * 公営掲示板・公共施設・町内会・スーパー等で配布/掲示	合計14,800枚	2019年6月 3,100 枚:夏休み子育て応援 2019年9月 3,000 枚:市庁舎フードドライブ 2019年9月 3,400 枚:食品ロス問題講演会 2019年11月 2,500 枚:冬休み子育て応援 2019年11月 800 枚:FAAVO (CF) 支援金募集 2020年3月2,000枚:食品寄贈と事務所移転

② インターネット媒体

facebook	週一回～10日に一度くらいで随時更新(理事長) https://www.facebook.com/foodbank.komae/
ホームページ	イベントの告知や報告随時更新 https://fb-komae.org/

③ テレビ、新聞、雑誌など

2019年7月26日	朝日新聞夕刊	「給食ない夏休み 痩せないで」
9月13日	日本経済新聞夕刊	「フードバンク資金難 余った食品寄贈 期待先行」
10月30日	朝日新聞朝刊 むさしの版	「狛江市視察の土産、生活苦しい市民へ フードバンクに寄贈」
12月 1日	朝日新聞朝刊 むさしの版	「ひとり親家庭に食べ物の寄付を 冬休みに向けNPO」
12月 6日	狛江のラジオ	冬休み子育て応援、食品寄贈と FAAVO 支援金募集呼びかけ
2020年1月29日	狛江のラジオ	「カンパでカンパイ」への参加呼びかけ
2020年3月18日	朝日新聞朝刊 むさしの版	「フードバンク狛江 支援申込み急増」

④ その他

- ・和泉エンジニアリングサービス(東和泉)の専用掲示板や支援者宅での掲示。
- ・5月、10月の市の小型家電無料実験回収日やイベント実施時に当団体活動紹介パネルを展示。
- ・9月15日狛江高校の公孫樹祭(文化祭)で食品ロス問題講演会のチラシ配布し、後日学校長と面談。

(3) 研修受け入れによる普及活動

フードバンクの普及活動の一環として、できる限り学生等の研修受け入れを行った。

- ・2019年5月:海城中学生研修／・7月:東急キッズベースキャンプ小学5年生体験研修
- ・8月:日本生命ボランティア研修／・2020年2月:東海大ゼミ生研修

4、フードバンク活動を普及するための調査・研究事業

今年度は、ひとり親子育て応援に申し込みのあったひとり親家庭に案内送付とアンケートを実施した。
(詳細は実施報告書を参照)

5、事業を支える組織基盤と運営について

事務所のカビ問題などにより移転を余儀なくされ、一年近く狛江市と交渉を重ねた結果、西野川の元消防団器具置き場に事務所と倉庫を、また狛江市庁舎内の空き部屋に作業所を設けることができた。食料支援事業の連携協定を交わして必要とされる事業を着実に活動したことが認められたもので、今後も期待に応えられる組織作りが必要とされる。

(1) 食品管理と事務所機能の改善

① 食品整理について。

食品整理については、2者協議・3者協議で、こま YELL 相談員の事務所引き取りから役所への配送、受渡しの変更に伴い、納品書記入の廃止と依頼書の見直しを行った。また、こま YELL への提供食品のセットをはじめ、企業・団体からの箱による寄贈品についても書式の簡略化を図り、入出庫の管理を改善した。

しかし2月3日から市庁舎の空き部屋への一部移転で作業が2カ所活動になり、食品整理の状況確認や事務方の入力作業の行き違いなどがあり、いかに共有して作業が進められるか議論してきた。4月以降西野川の元消防団器具置き場に事務所・倉庫を移して、スムーズな活動展開ができるよう努めていきたい。

② 事務所での活動。

開所日活動の担い手として有償スタッフを2名に増員し、常勤役員2名が開所日参加のボランティアへの作業指示や各事業を担い、事務処理などにあたってきた。また、各ボランティアの得意とする分野を発揮し自主性をもって活動してもらえるようスタッフも心掛けた。

事務所ではフードバンク活動の作業場の役割とともに、地域の諸団体が食品の受け取り時の交流の場としても活かしてきた。また今年度はひとり親子育て応援で食品を直接受け取りに来られるようにし、取りに来るとお米や提供品の追加があることがひとり親家庭にとって喜ばれ、団体としても、支援活動の実感ができてボランティア活動に参加するモチベーションが上がる取り組みとなった。

2月から市庁舎作業所と4月以降西野川の元消防団器具置き場に事務所・倉庫を移して、市庁舎の活動と事務所・倉庫にスタッフ・ボランティアも分かれて活動することで、これまでの事務所機能が少し低下したことは否めない。市の施設2カ所となって、有効に使って活動をさらに地域へ広げたい。

(2) ボランティアの参加と研修

① 開所日のボランティア参加と情報共有。

開所日ボランティア参加の事前連絡をくれる人は数人で、毎週月曜・木曜に来られる人は4~5人に限られる。計画的な作業内容と人員配置が難しく、旧事務所の狭いスペースでは、大人数のため足の踏み場のない日もあった。2カ所での活動になり、作業スペースも広がったが、引き続き作業と人員の配置を計画的に進める必要がある。これまで以上に専従的にかかわる役員と事務局スタッフの情報共有が重要となっているとともに、新たな



ボランティアの獲得やスキル強化の取り組みが必要となっている。

また、事務局会議や課題別検討会で決まったことなど、活動の報告をメールでコアメンバーだけではなく、ボランティアメンバーにも送るようにして共有を図ってきたが、今後も報告メールの発信を大切にしていきたい。

② 開所時間の変更・ボランティア研修など。

必要な有償スタッフの2人配置と時給アップを図るため、10時の開所時間を午前のメンバーにも意見を聞いて7月1日より午後1時から5時に変更することとした。

ボランティアの交流と情報共有を目的としたサンデーミーティングは、運営委員会により会員などを講師とした学習会として今年度は第4日曜に6回開催した。しかし限られたメンバーのみの参加にとどまり、開催曜日や内容の把握など検討が必要になっている。2カ所となって一同で集まる場が減り、ボランティア同士の顔合わせや交流の機会を意識的に設け、団体の求心力を高める取り組みが必要となっている。

(3) 組織基盤の整備

① 各会議の役割について。

理事会は毎月定期的で開催し、報告と業務執行を行って来た。事務局での実質的な企画遂行機能を高めて事務局会議を頻繁に開催し、課題別検討会では事業の取り組みについての詳細を決めるやり方で進めてきた。しかし午後の開所時間になって、時間を取れないこともあり開所時間が短いと感じることが多かった。2カ所に分かれ各会議の開催の仕方・参加者も今後の課題となっている。

② 組織課題の解決に向けて。

昨年度から組織課題の解決に向けて不十分ながら取り組んで来た。毎月の理事会で話し決定する事項と実際の事業を進める事務局で取り組む課題とに分け、役割を明確にして進めて来た。有償スタッフ2名になり、役割も分けて任せられるようになってきた。ひとり親子育て応援は、会議・周知から準備・配送対応・報告・振り返りと、有償スタッフを中心にスムーズに事業を進めてきた。事務所の狭さからか、「少人数でやっていくと手間が少なくてすみ、動きやすい。」という実態があったが、一方、誰もが関われ地域に広げる仕組みにしていくという点では、今後の課題である。

有償スタッフの事務局メンバーは、イベントや日曜の活動には参加しないこともあって、ほぼ全ての活動を担う専従役員の2名が多くを担い、役割分担が理事の中でも進んでいない問題は解決途上にある。

③ 組織の現状。

会員の加入状況については、現在正会員47名(昨年52名)、賛助会員個人52名(昨年45名)、団体5(昨年5名)で、ほぼ昨年度と同じ組織規模となっています。他方でFAAVO 地域オーナーとの出会いから昨年7月よりファンドレイジング・ネクストワンの伴奏支援を受けるようになり、SNSの活用や地域での寄付集めなどの提案や企業・団体訪問の同行支援も受け「カンパでカンパイ」の新企画による寄付ももらっている。

④ 事業資金の確保と財政基盤の確立。

会員・賛助の会費をベースに今年度は狛江市の家賃補助とパルシステム市民活動助成基金、クラウドファンディングFAAVOの寄付を受けて事業を進めてきた。寄付金は個人約39名、クレジットでの個人寄付は6名、3団体1企業からの寄付が寄せられた。

昨年助成金に頼っての組織運営から、基盤整備を会員の拡大と地域の企業や個人の賛助・寄付によって進めるため、月一回のファンドレイジング会議の開催や担当役員だけでなく、団体メンバーが寄付や賛助の呼びかけに地域を回るなど、持続可能なフードバンク活動を支えていける積極的なファンドレイジングの取組みが必要。

6、2019 年度活動経過 (2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

年	月	日	活動内容
2019	4	9	狛江市長と面談し、食品ロス問題講演会開催協力を要請
		24	環境政策課と協議、講演会日程と会場を検討
	5	10	こま YELL との二者協議
16		コープみらい染地店最終フードドライブ	
6	23	23	東京南部生協から組合員の寄付を食品として寄贈
		24	食品ロス削減推進法成立
		25	第 3 回通常総会 西河原公民館
	2	2	こまエコまつり
		21	東都生協協同組合フェスタ フードドライブ品受入れ
		24	民生委員生活福祉部会訪問
		27	こま YELL との二者協議
7	1	事務所の開所時間を午後 1 時～5 時に変更となる	
	12	日本フードエコロジーセンター見学 5 名	
	13	第 2 回フードバンクとつながる団体交流会 18:00 中央公民館講座室	
	22	日本フードエコロジーセンター見学し高橋氏に講師を要請、環境政策課 2 人	
	25	東京キッズスペース小 5 生の体験研修受け入れ	
	25	夏休み子育て応援、申し込み開始(～18 日)	
8	26	こま YELL と 2 者協議は事務・連携状況共有	
	28	福祉相談課含む 3 者協議の報告	
	13	東都生協入間センターフードドライブ品受入れ	
9	17	夏休みひとり親子育て応援 2019 子育て支援課と振り返りと冬支援の協議。	
	30	東京都市大学等々力高校生、文化祭での FD 寄贈品寄贈来訪	
	29	コープみらいフェスタでフードドライブ	
	7	環境政策課と打ち合わせ、元第 7 分団器具置場視察	
10	10	東京南部生協フードドライブ品受入れ	
	11	副市長面談 で家賃補助増額を申入れ拒否される	
	15-17	市庁舎フードドライブ	
	24	狛江市議会事務局より土産品寄贈始まる	
	25	FAAVO 支援金募集開始	
	26	午前くらしフェスタ、午後「食品ロス問題」講演会エコルマホール多目的室	
	26	日大商学部秋川ゼミ生祖師谷商店街フードドライブ品受入れ	
11	17	市民祭りでポップコーン販売とフードドライブ	
	20	福祉カレッジでこま YELL と講演	
	24	中島信子氏「八月のひかり」読書会 西河原公民館	
	26	東京南部生協組合員の寄付を食品として寄贈	
12	30	パルシステム狛江センター祭り	
	5	冬休みひとり親子育て応援申込み受付開始(～25 日)	
	6	狛江のラジオに出演	
	6	倉庫事務所移転に伴う問題協議	
	18	講演会の実施報告と今後の日本エコロジーセンター工場見学について環境政策課と協議	
	25	冬休み子育て応援締切、FAAVO 支援金募集終了	
2020	1	26	「ふれあい子どもまつり」と「冬休みひとり親支援 FAAVO 報告会」& 新年会
		29	狛江のラジオ出演
2	3	倉庫/事務所の移転について 2 者協議	
	4	ピン・缶リサイクルセンターでの最後のフードドライブとなる	
	9	「カンパでカンパイ」18:00 ピタッティー	
	13	こま YELL 学習支援ボランティア交流会 防災センター 401	
	18	子育て支援課と冬支援報告と春支援の協議	
	20	東都生協フードドライブ、東海大学ゼミ生研修受け入れ	
3	2	春休みひとり親支援申し込み案内の開始(～18 日)	
	4	倉庫/事務所の移転について 福祉相談課と二者協議	
	9	東京南部生協フードドライブ品搬入	
	22	元第 7 分団器具置場への引っ越し	
	27	40 世帯先着で緊急食料支援申込開始(～4 月 5 日)	
	31	申込 40 世帯に達し、受付終了。4 月 2 日、5 日にセット発送する。	